



ニュースリリース 平成 23年 10月 4日

＜企画展＞「漆の用と美―漆生産の現状と漆工芸―」のご案内 ～常陽史料館～

常陽銀行（頭取 寺門 一義）は、このたび、常陽史料館（館長 館野 孝男）において企画展「漆の用と美―漆生産の現状と漆工芸―」を開催いたします。

茨城県は現在、全国第二位の漆生産量を誇っており、その大部分が天子町で生産されています。天子漆はのびがよく、透明感や光沢に優れていることから、輪島塗などの高級漆器の仕上げや国宝級文化財の修復などにも重用されてきました。日本で使われる漆の約98%を外国産が占める中、天子漆はその質の高さで全国に強い存在感を示しています。

しかしながら近年は、この地域の漆掻き職人の高齢化が進み、後継者不足の問題から、生産そのものが危機にさらされています。そのような状況を憂いた漆工芸作家の辻徹さん（常陸大宮市在住）は、漆器ブランド「きじあん器庵」を立ち上げ、天子漆の生産のみならず漆器の制作をも包括した、新しい漆産業の確立に取り組んでいます。

本来、漆の採取は6月から10月までと限定されており、採取シーズン以外を漆器の制作にあてることで、年間を通じて漆に携わる生産スタイルを確立し、生計をたてることのできる職業としての基盤作りに取り組んでいます。また、分業作業の多い漆器制作の中で、木地制作から漆塗りに至るまでをひとつの工房で行うことで、伝統を守りながらも新しい発想を自由に取り込めるように心掛けています。辻さんのもとは若手スタッフが集い、伝統工芸の継承と地場産業の活性化の両立を目指しています。

今展では、これら天子漆の現状を紹介するとともに、辻さんの作品をはじめ日常生活になじむ親しみやすい漆器約30点を展示、漆産地の今を伝えます。

つきましては、多くの皆さまにご覧いただけますようご高配を賜りたくご案内申し上げます。

- 会 期：10月4日～11月20日
- 休 館 日：毎週月曜日
- 開館時間：10：00～17：45
- 会 場：常陽史料館 アートスポット（入場無料）
- 後 援：天子町、日本文化財漆協会